

日本語のようす すっかり秋空になったころ、「朝晩すずしくなりましたね。」と声をかけると、多くの研修生は決まって驚いた顔をします。「涼しいじゃありません。寒いです。」と。暑い地域から来た研修生にとっては、朝晩寒くなったそうです。一方で、雪が降るモンゴルから来た研修生は夏の終わりがうれしくて、ますますパワーアップしそうな様子です。日常での日本語会話は、母国語を忘れるくらい、自然に出てくるようになったとインド人研修生とチベット人研修生は言います。日々の生活の中で身につけた力は強いですね。その力を日本語能力試験にも活かせるとういことです。日本語能力試験は、A クラス 4 名と B クラス 1 名が N4 を受験し、B クラス 4 名が N5 を受験することになりました。試験まであと〇日という日めくりカレンダーを作成し、掲示しています。試験を意識して勉強に励み、全員合格できることを願います。 がんばれ、研修生！（立石考子）



体験農園だより 9 月 2 日(土)より令和 5 年度体験農園秋冬作後期を開始しました。参加組数は 37 組、うち 2 組は初参加のご家族となります。同日に行った開始式には 13 組が参加されました。開始式後には畑へ移動し、ニンジンとジャガイモの播種作業を行いました。今回からは試験的に「天恵緑肥」という青草を嫌気発酵させた発酵液を導入しました。少し匂いがきついですが、根の張りを良くすると言われており多くの方が試されています。また今回は久しぶりに BBQ を行いました。約 30 名の方がご参加され、研修生の自己紹介や踊りの披露も行い、楽しい時間を過ごすことができました。まだまだ残暑がきびしいですが、おいしいお野菜を共に育てていけたらと思います😊(飯川)



こらぼら Q でん米作りプロジェクト稲刈り大会開催 9 月 30 日(土)、秋晴れの中 130 名(ボランティア含む)の参加者で、「九電米作りプロジェクト稲刈り大会」が盛大に開催されました。今年は例年以上に稲の実るスピードがとても早く、5月末に田植えをした稲は 2 週間ほど前に収穫が終了してしまったので、当日は別の田んぼでの稲刈りとなりました。100 人を 2 グループに分けて稲刈りを行い、グループごとに横 1 列になって子どもが中心となってカマを持ち、丁寧にケガをしないように稲を刈り取っていきました。稲刈りの時間は 40 分ほどでしたが、センターに戻ってからは、刈り取ったお米がどのように処理をされて食べられるようになるのか、倉庫に備え付けられた機械設備を見学しながら説明を行い、昼食時には新米のおむすびを自分たちで作って、美味しいみそ汁と一緒に食べて、みなさん大満足の様子でした。(豊田)

10 月の予定

- 1 日 脇山校区運動会
- 4 日 国際協力の集い(東京)
- 5 日 九電生協研修会
佐賀推進協議会料理交流会
- 26 日 体験農園稲刈り
- 30 日 カンボジア友好協会式典
- 12 日 若竹保育園芋掘り
- 13 日 脇山小学校稲刈り
- 19 日 熊本推進協議会報告会
- 20 日 くれふる BBQ
- 21 日 体験農園酵素づくり
- 25 日 マレーシア友好協会記念式典
- 28 日 生松台ふれあい市
- 28 日 オーレック祭り
- 29 日 佐賀国際フェスタ

ご協力ありがとうございます！

【9 月の寄付品】

馬場雄二、清水利春、前田富洋

【9 月の新入会】

西岡 幹郎、大森 ひろ子、岩下 勝守

農場研修風景 去年の 3 月に、6a ほどの畑に福岡で品種改良された「とよみつ姫」というイチジクの苗を植えました。その時はボランティアの方にも参加していただいて賑やかに植え付け作業を行いました。それから 1 年間かけて、植えたイチジクの苗はぐんぐん成長し、長い枝ですと 2 メートルほどに成長し、今年の春を迎えました。ちゃんと大きくなるだろうか、枝が霜でやられていないだろうかと心配をしましたが、4 月から伸び始めた新しい芽はぐんぐん成長し、節ごとについた実は 8 月から熟し始めて美味しい果実を毎日収穫することができています。出荷物が少ないこの時期に、安定した収穫が出来るイチジクは非常に有難く、何よりも女性の研修生は大好きで、販売できない果実をいつも嬉しそうに食べています。稲の収穫も残りわずかとなり、オイスカセンターでは「実りの秋」と「食欲の秋」を満喫しています。(豊田)



まるごと!西日本

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部

福岡市早良区小笠木 678-1

TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322

E-mail: oisclntc@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)

2023 年 10 月号



@OISCA_NTC

Instagram



facebook

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

インド・ダラムサラ訪問 8 月 29 日～9 月 5 日にかけてインドに出張しました。目的はダラムサラ(インド北部の地域でチベット亡命政府所在地)にて、チベット亡命政府主催のドナー(各国支援団体合同会)に参加し協議することでした。西日本研修センターでは毎年チベット亡命政府から 1 名の研修生を受け入れており、今年もカルマさんが研修を受けています。今回の会議は 15 年ぶりの開催でしたが、キション(大統領)が 2 日間の会議に対し常に主導権を持ち、各国より集まった支援組織 30 団体とコミュニケーションを取り合い、よりよいチベット人の保護、育成、支援について協議しました。その中でオイスカが長年継続している人材育成も高く評価され今後の OB 連携が強化できるものと確信しました。

今回は会議終了後、翌日、チベット仏教の最高指導者であるダライラマ法王に面会させていただき、ご高齢であるにも関わらず命についてのお話を伺い、参加者一人一人とご挨拶頂きました。またとない機会でしたが、3 年前に帰国したテンジン・パルドンさんも駆けつけて、久しぶりの再会となりました。これからもチベット研修生が現地で活躍できるよう支援していきます。(廣瀬)



朝倉産業視察 9 月 27 日(水)、オイスカ朝倉推進協議会主催の朝倉市産業視察が行われました。はじめに朝倉市役所へ表敬訪問に伺いました。林裕二市長は、市と個人として 30 年以上、ご支援下さっております。その後、東峰村役場にも表敬訪問へ伺い、真田秀樹村長より東峰村の現状や災害復興、BRT 事業のお話をいただきました。表敬訪問を終えて、農事組合法人宝珠山きのご協同組合様、山田堰、(株)藤井養蜂場様、(株)ハラダ様の計 4 件を視察させていただきました。宝珠山きのご協同組合様では、栽培中のハウスや菌床づくりの現場を視察させていただき、きのご栽培に興味を持っている研修生達がたくさん質問していました。そして昼食後に山田堰の見学に行きました。今回は 2 名のガイドが歴史から構造、故 中村哲氏の功績について説明いただきました。(株)藤井養蜂場様では三連水車と養蜂、特に蜂蜜採集とビン詰め工場について説明いただきました。最後に(株)ハラダ様で農業資材のフィルム加工場を見学させていただきました。当工場は国内最大級の規模を誇り、様々なフィルムを加工しています。こちらでは今年 7 月より 3 名の技能実習生を受け入れて下さっており、彼らの実習ぶりも見学することができました。大変学びの多い一日となりました。オイスカ朝倉推進協議会の皆様、視察を受け入れてくださった企業の皆様、ありがとうございました。(飯川)



早良高校より寄付贈呈 9 月 25 日、早良高校生徒会一同と後藤校長先生が来所され、6 月に同学校で開催した文化祭での収益金の贈呈を頂きました。今回は生徒会で協議した結果、強い連携関係にあるオイスカの海外研修生の育成のために寄付をすることで意見がまとまり、寄付を頂きました。同校とは日頃より挨拶をかわし、生徒ボランティアとして研修生と一緒に作業をしたり、こちらから運動会にも参加させた頂いたり、また、8 月のカンボジアツアーには 2 名の生徒が参加したりと、とても理想的な連携が取れています。寄付に感謝するとともに、今後益々の連携を楽しめることを願います。ありがとうございました。(廣瀬)



福岡アジア文化賞授賞式参加

9月12日、福岡国際会議場にて開催された、第35回福岡アジア文化賞授賞式に研修生全員とともに参加させていただきました。残念ながら写真の掲載はできませんが、当日は皇室より秋篠宮皇嗣ご夫妻がご臨席される中、3名の方が授賞されました。研修生はそれぞれの国の民族衣装にて会場に臨み、厳粛な式典に参加しました。受賞者の一人がカンボジアの方で、カンボジア研修生のエムナット君が大変喜んでいました。研修生もいつの日かそれぞれの国に貢献し、いろんな賞がもらえるようになることを切に願います。(廣瀬)

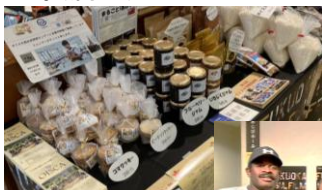
第25回西日本支部運営委員会

9月29日、オイスカ西日本支部第25回運営委員会が九州電力で開催されました。当日は辻運営委員長(九州電力地域共生本部部長)の議長のもと運営会社8社より総務部長の皆様にご出席いただき、令和5年度上期事業報告及び下期事業計画並びに収支予算が審議され承認されました。今年は行動制限も緩和される中、これまでの取り組みを更に継続して、特にオイスカの農産物宅配事業の更なる充実と会員増強に向け運営委員会の皆様のご支援をいただきオイスカの認知度を更に上げていけるよう取り組んでまいります。運営委員の皆様にはご多忙の中ご出席をいただきありがとうございました。(満川)



アジアフィルムフェスティバル

9月14日から19日までの期間、福岡アジアフィルムフェスティバルが福岡市アジア美術館で開催されました。今年もアジア8ヶ国の映画が上映され、海外の研修生もご招待を受け映画鑑賞をさせていただきました。また会場受付ではオイスカの新米をはじめ加工品、お菓子、アジアの民芸品やコーヒーなどを販売していただきご来場されたたくさんの方にお買い求めいただきました。この映画祭はオイスカ会員で福岡リバティライオンズクラブの北村義弘様(シップス㈱代表取締役)の企画で毎年ご支援をいただいています。大変ありがとうございました。(満川)



全インドネシア地方政府協会一行研修受入れ

9月19日、全インドネシア地方政府協会(各県知事会)より、各県の知事6名をはじめ、地方政府担当官を含め29名がオイスカ西日本研修センターに来所しました。今回の来日の目的は、「日本の農業及び農業発展のための具体策」「災害発生及び復旧の現場視察及び対策」がテーマでした。西日本研修センターでは、オイスカが行う有機農業を基礎とした人材育成の説明を行い、インドネシアにおけるオイスカ活動実績報告、そして、有機農業と農業の今後の課題などについて説明を行いました。参加された知事一行、真剣にメモを取り、また積極的に質問され短時間ではありましたが充実した研修となりました。各県知事からは「直接オイスカと協定を結ぶにはどうしたらいいのか?」との問い合わせに、同行した内務省担当官と協議する場面も見られました。午後は6年前に豪雨災害に被災した朝倉市松末地区を訪問し、地元代表の方より写真をもとに当時の状況を説明頂き、また復旧した河川、道路等の視察を行いました。その後、山田堰、三連水車を視察し、最後は九州電力が取り組む、DXを活用した先進的なイチゴハウスを視察しました。この研修がそれぞれインドネシアに帰った後、各県で活かされることを願います。関係者の皆様、ご対応頂きありがとうございました。(廣瀬)

～会員さまご紹介～ 司法書士法人 ヒューマン・サポート法律支援センター 様

オイスカに入会したきっかけ 各種ボランティア活動に取り組まれている方々が身近に存在している職場の環境の中で、人材育成に力を入れ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しているオイスカという団体の紹介を受けました。若者の人財育成を基礎として世界規模での活動を実践されているオイスカの取り組みと、より良く法を適用することで、周囲を幸せにしていきたい、という私たち法人の価値観の実践とは、共感することができると思い、入会させていただきました。

オイスカへのメッセージ オイスカが取り組む人材育成を通して、成長した若者が農村開発や環境保全活動を基盤として、世界平和に貢献できることを期待しています。私たちも、オイスカの活動に取り組む若者から学ばせてもらい、世界の司法過疎地域の解消へ寄与できる人材の育成に取り組んでいける法人になれるよう、学び続けていきます。

事務所

龍田事務所 〒861-8006 熊本市北区龍田3丁目32番18号

薄場事務所 〒861-4131 熊本市南区薄場町46番地 薄場合同ビル内

健軍事務所 〒862-0910 熊本市東区健軍本町22番2号(101)

清水事務所 〒861-8066 熊本市北区清水亀井町16番11号

ホームページ: <https://hshsc2003.jp>

尚、当法人は、「行政司法書士法人ヒューマン・サポート」

「NPO 法人身近な犯罪被害者を支援する会」との連携を図っています。

法人紹介 司法書士法人ヒューマン・サポート法律支援センターは、平成2年1月に司法書士登録をした司法書士大島隆広事務所を前身として、平成15年4月1日に設立されました。主な業務は、不動産の売買や相続等不動産登記手続き、会社設立や役員変更等の商業登記手続き、遺言書作成や財産管理等老い支度に関する業務等です。[法を活かし、人を生かす。]という経営理念の下、熊本市内に4か所の事務所を有し、いつでも、どこでも、誰でも、気軽に法律相談ができる身近な法律専門家を目指して取り組んでいます。

寄付金贈呈

9月27日(水)、オイスカ会員の光安正光様(福岡県志免町在住)はオイスカ国際協力活動へ長年のご支援をいただいています。光安様は農業高校教師をリタイア後、様々なボランティア活動に参加をされました。特にオイスカの人材育成事業には高い評価を示され、来年90歳を迎えるのを前に西日本研修センターへ過分のご寄付をいただきました。ご支援誠にありがとうございます。(満川)



OBの紹介 今回紹介するOB研修生は、カンボジアのブラッチさんです。彼は2012年の研修生で、いつも笑顔を絶やさず周りを明るくする存在でした。今回のセンター主催のカンボジアツアーでも、現地でいろいろとお世話をさせていただきました。



◆国に帰ってから今まで何をしていましたか? 私は、国に帰ってから De Heus Company という会社で、動物飼料やニワトリの飼料の生産について、ジュニアスーパーバイザーテクニカルとして技術指導をしています。そして、2013年から今までオイスカカンボジアでボランティアとして GPF の活動に参加してきました。

◆あなたの家族を紹介してください。

私には、二人の娘(姉:リンダ8歳、妹ローラ6歳)と息子(ローレン4歳)が一人います。

◆日本での思い出は何ですか? 私の思い出はたくさんあります。オイスカの先生や友人(他国の研修生)たちと一緒に豊かに実った野菜の収穫をしたり、小学校を訪問し多くの人と交流を深め、日本料理を食べ、長崎や広島への訪問などたくさんの有名な場所を見学し、そして日本語の勉強など数えたらきりがありません。

◆将来のプラン 自分でブロイラーのニワトリを20,000羽ほど飼育したいです。

以上、カンボジアの養鶏業界、オイスカでのボランティア活動などでがんばっているカンボジアのブラッチさんでした。これからの活躍を期待します。